

## 地域循環型エネルギー・次世代リーダー育成プログラム

～（一社）多摩循環型エネルギー協会主催

プロジェクトゼミ（公民連携ビジネス公民連携による地域/社会貢献ビジネス）

（指導教員 片桐 徹也）

小菅慧、長間裕一、平林雄太、許田健斗

### 1. 次世代リーダー育成プログラムとは

多摩市を中心とする多摩地域にて市民太陽光発電所等の自然エネルギーの普及を目指す市民参加の取り組みを進めており、片桐先生が理事としても（当該プログラムのメンターとしても）参画している「一般社団法人多摩循環型エネルギー協会」が主催する、大学生・大学院生が月 1 回ペースで集まり、自然エネルギー・地域づくり・環境教育・ソーシャルビジネス等をキーワードに、自然エネルギーをテーマにした体験活動と実践現場での OJT を通じて、次世代リーダーを育成する年間プログラムである。

8 大学 17 人の学生たちが、様々な体験、思いをもとに、自らがプロジェクトを作り上げていく。現在、7つのプロジェクトがつけられている。

### 2. これまでの活動内容

次世代リーダー育成プログラムの活動が本格的に始動する最初の一步は、2013 年 8 月 28・29 日に行われた、山梨県山中湖村にある NPO 法人「豊穰の森」でのキャンプである。

写真 1. NPO 法人「豊穰の森」でのキャンプ



写真 2. 多くの学生たちと共に



この「豊穰の森」でのキャンプは 2 日間、各人の企画案やアクションプランについてじっくりと討議した。それぞれ、自然エネルギーや循環に関連した企画である。各人が具体的な企画内容やどのような日程で行うのかといったアクションプランを発表していった。

各人の企画を発表して、より深く企画の内容に入っていた。その後、似たような企画の人たちとチームビルディングし、そこからチームとしての企画を練り上げていった。

企画発表を繰り返し行うことで、似たもの同士の企画であれば一緒に協同し合いながら進めていくことができるので大切なことである。

そんな中、他の人たちと仲良くなれるのか不安だった人たちも多かったが時間の経過とともに不安が解消され、夕食の頃にはみんな仲良く心を開いていった。

短いようで長かったキャンプが終わり、9月22日に「からきだ菖蒲館」(多摩市・唐木田地域のコミュニティセンター)にてプレゼン発表を行った。

そこでは、キャンプ時よりさらに改善をしたプレゼン発表をした。

各人の企画がエネルギーに関連づけて、子ども向け、分散型電源、ゴミ発電、トークイベント、語り合い、ミュージックといったものができた。そのなかで、聴講者から質問やアドバイスなどがされて、各人の企画の改善点が明確化された。

このプログラムの特徴の一つは、社会人メンター制を採用していることである。メンタ

一とは、「伴奏者」ということで、私たち学生チームに、数名ずつの専門性を持った社会人が連携してくださり、企画についての質問やアドバイスや導きをいただける。自分自身の企画の向上だけではなく、自身への成長にもつながっていくということが皆体感できたと思う。

各人の企画が着々とかたち作られるなか、10月6日に市民発電を行っている、神奈川県相模原市にある「牧郷ラボ」という廃校となった旧牧郷小学校のなかに「藤野電力」と「トランジション藤野」という働きがある。

写真 3. 旧牧郷小学校



この「藤野電力」と「トランジション藤野」の中心に関わっている小田嶋哲也さんのお話をお聞きした。

はじめに、午前のセッションとして、「トランジション藤野」とはなにか。を語っていただいた。まず、トランジションの考えとして、化石燃料に「依存」している社会から「依存」しない社会に移る。化石燃料からの「脱依存」である。

化石燃料を思うがまま使っていくといずれか枯渇する。枯渇してしまうと国同士の争いが起こってしまう。争いが起こる前に化石燃料の使用を低減、遠ざけるようにする。という思いがある。

その思いをもとに「トランジション藤野」では、重機を使わずに人間の手だけの力で間伐をする「森部」や物々交換に似ているようで違う、実際のお金を使用しない地域通貨の「よろずや」といわれる通帳がある。この「よろずや」は、現実に存在する通貨・貨幣で

はなく、藤野だけ使用できる地域通貨であり、それぞれ等価交換によって生み出された通貨のことである。

写真 4. 右の通帳が地域通貨の「よろずや」



そのような「トランジション藤野」での活動を行っていくにつれ、NPO 法人でもなく会社でもない、任意団体という形態をとっている「藤野電力」が誕生したのである。

この「藤野電力」の主な活動として、

1. お祭り・イベントでの再生可能エネルギーによる電源供給
2. 太陽光発電などの組み立てワークショップ
3. 藤野地域の施工主への太陽光発電の設置
4. 市民発電所の建設。発電した電力を蓄電し、誰でも使用できるようになっている
5. 節電。効率よくエネルギーを使用するための知恵を共有

そして、「藤野電力」が特にこだわっていることが、

1. 身の丈・手仕事。人に頼るのではなく自ら考え、行動して自らの仕事をつくる
2. オフグリッド。グリッドは編み目・方眼の意味で、自立した発電・電源網を目指す、自立できるエネルギー
3. オープンソース。藤野電力の取り組み、成果を他地域でも活用したいのであれば自由に共有できる。より、他地域でも「藤野電力」のような活動が行われていくことを願っている。

これで「藤野電力」と「トランジション藤野」の視察は終わりました。

この視察で体験したことは、「次世代リーダー育成プログラム」に生かせる良いアイデア

の1つとなるのだと思われた。

「藤野電力」と「トランジション藤野」での視察を終え、各人の企画が着々と完成に近づいてきている。そして、11月3日には、「恵泉女学園大学のオーガニックカフェ」内で午前のセッションで企画中間報告を行い、午後は「パタゴニアセッション」を行った（メンターのお一人に「パタゴニア（環境に配慮した機能的なアウトドアウェア等を製造／販売する）」の社員さんがおられる。）

午前のセッションの中間報告は着々と各人の企画が完成に近づいて、あともう一步と所まで来ている。ここからラストスパートをかけなければならない。各人の企画が何らかの成果を上げ、会得することを目指して。

そして、午後にはパタゴニアセッション「パタゴニアの環境・社会イニシアティブ」をお聞きした。

写真 5. パタゴニアセッション



パタゴニアのセッションでは、パタゴニアは世界でも有数の環境に対する取り組みがされている企業である。

ウエットスーツに使用されている素材を石油由来のものから植物由来の素材に変更、コットン製品に使用されているコットンを全てオーガニックコットンへ切り替え、環境保護に率先して取り組んでいる。また、投資ファンドの設立や、食品事業にも進出している。

このパタゴニアセッションを聞き、パタゴニアという企業は環境に対する取り組みを取

り組んでいくと、多様な事業に進出していき、世の中のために努力していている企業なのだと感じた。

これら 3 つの大きなイベントを体験していくことで、私たちの考え・アイデアが的確になっていき、以下の 3 つのプロジェクトを企画・実行に至る。

### 3. 企画が固まってきたプロジェクト

#### (1) エネカフェ for young leader's

コンセプト

「エネルギーや環境、地域に関心ある人たちの世代間交流の場をつくる」、「多摩ニュータウン地域で行なわれているエネルギーや環境に対する活動を地元の人に広めることの支援」という理念のもとに多摩ニュータウン地域で行なわれている再生可能エネルギー発電や環境活動の現場見学や懇親会などを行い、これからの多摩ニュータウン地域のあり方について同地域の学生と社会人が一緒に考えいくということを目的に学生が中心になって開催していくを試みる。

#### ① 「多摩ニュータウン環境組多摩清掃工場で行なわれているごみ発電施設の見学&参加者同士の交流会」【チーフ：長間裕一】

・内容

八王子、町田、多摩の 3 市で構成され、ゴミの中間処理を行なっている多摩ニュータウン環境組合ではゴミの焼却により発生した熱を利用して蒸気タービン発電機で発電を行い、その電力を工場運営のための電力として使用しています。そしてあまった電力は電力会社に売電をしています。今回はその蒸気タービン発電機でのごみ発電の現場を中心に現場見学を行ないます。その後参加者同士の交流会を行い、ゴミを通して多摩ニュータウン地域のエネルギーや環境のことについて考えるきっかけ作りの場に出来ればと思う。

・実施日 2013 年 12 月 13 日（金） 13 時 15 分～16 時 00 分

ごみ発電施設を中心としたごみ処理見学（1 時間半）&交流会（1 時間）

#### ② 「多摩ニュータウン地域の現状と将来あるべき多様なエネルギーを考える」

（チーフ：小菅慧）

・内容

多摩市内の「一般社団法人 多摩循環型エネルギー協会」の太陽光事業をはじめ、多摩市や多摩ニュータウン地域のエネルギーについての現状と課題を観察する。それを踏まえ、より良いエネルギーを作るにはどのようなものがあるのか。また、現在行われている発電方式で集中型電源と言われる地方に発電施設を設ける発電方式とその地域に発電施設を設ける分散型電源の発電方式ある。これらが将来、多摩市多摩ニュータウン地域でのあるべき姿などを考察し、現状の課題と資料をもとに参加者たちと将来に向けた多様なエネルギ

一を考えるワークショップを行う。

・実施日 2014年2月1日(土) エネカフェ内で企画実施。

## (2) MUSIC&ENERGY {エネルギーを音と体で感じよう} 【チーフ：平林雄太】

企画概要：

ギニア出身のジャンベプレイヤーのラウラウ・バングーラさんによる観客参加型のライブとワークショップ(内容は未定) \*ワークショップは、次の3つのポイントを基準に行う。{①ライブの熱気を冷まさない②一体感の持続③他人の意見を受け入れる仕組み} これによりライブと連動したワークショップ作りを目指す。

目的：

若者にエネルギーへの関心を持ってもらうキッカケ作りとして、音楽を通して身体を動かすことはきっかけ作りの最適方法と考えた。例えば手拍子も立派なエネルギーだといえる。ただ一人でやっているだけでは、そう感じることは難しい。けれども、何十人もの人が一斉手を叩くことで一体感が生まれる。この一体感こそが人の意識に直に伝わるものだと考えた。

キッカケ：

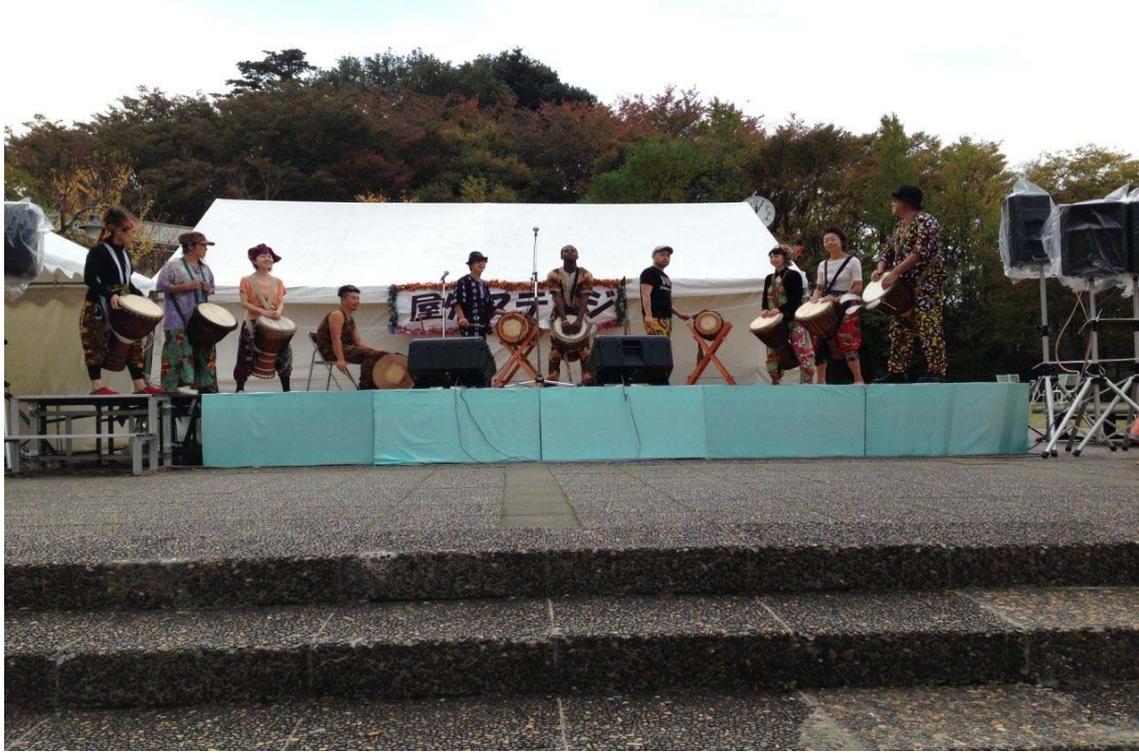
震災が起こり、福島第一原発問題に端を発したエネルギー問題で、テレビや新聞、ネットなどで大きく取り上げられ震災前と比べると、自分の耳に入ってくる情報は多くなった。しかしながら、自分の生活をしている中では特に問題とは感じる事が出来ない。誰かが何とかしてくれる。そう思っていて他人事のように受け止めていた。

多摩循環型エネルギー協会での次世代リーダー育成で学ぶ中、多摩エネルギー協会も含めて、日本の各地で取り組みがあるのは原発に頼らない仕組みを作ろうという意識が日本中に存在することを知った。それらは長いスパンで取り組んでいかなければと聞いて、自分が社会にでた時に少しでもその意志を引き継いで何かできないか、その為に今学生の内に自分にできる事がないかと考えるようになった。しかしながら、若者の感心は薄く、自分もそうであったからこそ、多くの若者に感心を持ってもらいたいと考えた。

当初はエネルギーというものを電力に直結させた固定概念にとらわれていたが、そう思った考えで、若者にエネルギーを伝えることは難しい。そう感じていた折、周りの意見を聞くことでエネルギーを広い意味で捉えるようになった。

そして、一般の音楽 LIVE などでは沢山の電気を使っている現状があるが、電気を使わず、音と人から生まれるエネルギーが一体となり生産される。その事を多くの人に体感してもらおうと思いこの企画に取り組み始めた。

写真 6. ジャンベの演奏様子



#### 4. おわりに

本発表祭時には、「エネカフェ for young leader's」のイベントを終えています。その報告をさせていただきます。

他二つのイベントは、新年に開催・実行予定ですが、地域と共に「循環型エネルギー」を学びつつ、現実的に実践出来ることに喜びや効用を実感しています。このような機会を与えていただいています、「多摩循環型エネルギー協会」、社会人メンターのみなさん、また、お関わりいただいている市民の皆さんに感謝いたします。